

国立大学法人九州工業大学経営協議会議事要旨（令和3年度第5回）

開催日 令和4年3月15日（火）
場所 本部棟2F会議室、オンライン
出席者 【本部棟2F会議室】麻生委員、小笠原委員、高原委員（五十音順）、
学長、理事（研究・総務・国際・施設担当）、理事（教育・学生・情報担当）、理事（入試・計画評価・ダイバーシティ担当）、
理事（経営改革・財務担当）、理事（広報・社会連携担当）、
【オンライン】井上委員、久保田委員、松岡委員、宮腰委員、山口委員（五十音順）、
工学研究院長、情報工学研究院長、生命体工学研究科長
列席者 【オンライン】近藤監事、林田監事
会議成立 構成員19名のところ、17名の出席により定足数を満たしていることが確認された。

議題	NO	議題	結果	主な意見
議題 1	(審議事項)	経営協議会規則等の改正	原案のとおり承認され、役員会に付議。	
議題 2	(審議事項)	令和4年度 学内予算編成方針	原案のとおり承認され、役員会に付議。	○予算編成にあたっての基本的な考え方の5つの柱の部分が、その下の細分化された項目にどのように繋がっているのかを表現することで、どのような意図で配分しているかも伝えることが出来るためそのようにしては。（学外委員） ○戦略的経費の総額が昨年度から約1億7千万円増えているが、この増分はどこを削ったものか。（学外委員） →予算の組み替えおよび各経費からかき集めて捻出したもの。（学内委員）

議題	NO	議題	結果	主な意見
議題 3	(報告事項)	令和4年度からの組織体制		<p>○組織改編を現場にどう浸透させるか。現組織の課題・問題点を示しつつ、新組織に対しては期待することを示しては。また、議題2の予算配分と組織運営を結び付けて示すことができるとより理解されやすくなる。(学外委員)</p> <p>○P19の組織図(横系)にP9予算編成の重点事項(縦系)の要素を組み込んで方針がどのように組織改編に映し出されているかを視覚的に表現したものを別途作成することでより伝わりやすくなるのでは。(学外委員)</p> <p>○目標達成のための意思決定の迅速化などは、組織改編だけではなく組織運営の中身を変えないと解決できない課題もある。また、目標そのものの質向上も課題である。全体を通して組織を補完するための実質についての議論があった方がいいのでは。(学外委員)</p> <p>○日本の公的機関は意思決定ができない傾向があるが、「決められる組織へ」という部分にコミットされたことはとても良いと感じる。P19健康支援とDXが結び付けられれば面白いことができそうに思うので、頑張っていたきたい。(学外委員)</p> <p>○組織改編は仕事の仕方を変えることになるが、組織と連携した会議体・運営の変え方もセットで示した方が受け手にはわかりやすい。仕事の質を向上させるためには、組織論のみでなくマネジメントをどうするかを具体的に示していくとより浸透しやすいのでは。(学外委員)</p> <p>○組織図において縦の繋がりは示されているが、横の繋がりがわからない。縦と横を上手く繋げて運営できると組織の機能がより発揮される。(学外委員)</p> <p>○P19組織図において下三分の一(教員組織)は今回改編されていないということだったが、それらの組織にも問題点があるのであれば検討が必要では。(学外委員)</p> <p>→教員が自由な発想で動くことと相容れない部分が残っている。あり方に関しては今後検討していきたい。学部長とその下の学科長の役割と権限の明確化を目指して検討している。教員の力を運営に上手く活かすための可視化及び位置づけをしていくことが必要だと考えている。(学外理事)</p> <p>○国大協において教員の研究時間確保について議論した際、新しいことをやると時間や人、お金が必要になる一方、今までやってきた業務もすべてやめることは当然出来ず一定程度やらなくてはならない部分がある。新たな取り組みと既存の業務との整理をしていくことが運用上極めて重要になる。また、例えばカレントとリスキリングをこれまでと全く別で考えるか、既存の大学院教育と関連させるかなどでどう機能させるかが変わってくるので検討が必要。(学外委員)</p>
議題 4	(その他)	若手工学アカデミーグラントの報告		